



Level 6-7

2015年度
第1回



検定開始の合図があるまで問題を開いてはいけません。
まず、下記の注意をよく読んでください。

□ 検定上の注意 □

1. 検定時間は60分です。
2. 検定開始前に答案用紙に受検番号・氏名・生年月日を必ず記入してください。
3. 検定が始まって、印刷が見えにくかったり、ページがおかしかったりしたら、手をあげて
監督者に知らせてください。
4. 問題のあいているところは自由に利用してください。
5. 問題は、答案用紙と一緒に回収します。

受検番号

氏名

《問題Ⅰ》 次の問いに答えなさい。

第一問

——線部の漢字の読み方を書きなさい。

- (1) 私は我流で油絵を描く。
- (2) 富貴とは金持ちで身分の高いことである。
- (3) 祖先の墓に花を供える。
- (4) 貧しい人々を救済する。
- (5) 観覧車に乗った。

第二問

——線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- (1) 昨日ザツコク米を食べた。
- (2) 不要なものは早くシヨリしなさい。
- (3) 布を赤くソめた。
- (4) 私の父は本が好きで、ゾウシヨが多い。
- (5) 私のイチゾンでは決められない。

第三問 次の（ ）に当てはまる語を後から選び、漢字に直して四字熟語を作り文を完成させなさい。

- (1) 昼夜（ ）したが、締め切りに間に合わなかった。
- (2) 一触（ ）のにらみ合い。
- (3) あの裁判官は厳正（ ）だ。
- (4) どうして君はいつも優柔（ ）なんだ。
- (5) 日本国憲法の前文で主権（ ）を宣言している。

ふだん	れっしゃ	そくはつ	けんぎょう	かんしゃ
ざいみん	かぞく	ぶんりつ	ちゅうりつ	けんこう

第四問 適切な熟語を選び、カタカナを漢字に直しなさい。

- (1) () で国賓こくひんの晩餐会ばんさんかいが開かれた。
コウシツ コウゴウ コウキョ
- (2) 僕ぼくの家は() な住宅地にある。
セイジャク カンセイ レイセイ
- (3) 犬は自分の() にマーキングをする。
セイイキ チイキ リョウイキ
- (4) 私わたしの() の銘めいは、一期一会だ。
サユ サユウ ザユウ
- (5) 学費が今日まで() だった。
ミマン ミスイ ミノウ

《問題Ⅱ》 次の問いに答えなさい。

第一問 —— 線部(1)・(2)の主語となる具体的な言葉を抜き出しなさい。(句読点をふくむ。)

踏切りの近くには、いずれも見すばらしいわら屋根や瓦屋根がごみごみと狭苦しく建てこんで、踏切り番が振るの
※① いちりゅう
であろう、ただ一旒のうす白い旗がものうげに暮色を揺っていた。やっとトンネルを出たと思う―その時その蕭索
※② しょうさく
とした踏切りの柵の向うに、私は頬の赤い三人の男の子が、目白押しに並んで立っているのを見た。かれらは皆、こ
※③ せんてん
の曇天に押しすくめられたかと思う程、そろって背が低かった。そうしてまたこの町はずれの陰惨たる風物と同じよ
※④ せま
うな色の着物を着ていた。それが汽車の通るのを仰ぎ見ながら、一斉に手を挙げるが早いか、いたいけな喉を高くそ
※⑤ けん
らせて、何とも意味の分らない喊声を一生懸命にほとばしらせた。するとその瞬間である。窓から半身を乗り出して
※⑥ せつな
いた例の娘が、あの霜焼けの手をつとのばして、勢いよく左右に振ったと思うと、たちまち心を躍らすばかり暖な日
※⑦ せつな
の色にそまっている蜜柑がおよそ五つ六つ、汽車を見送った子供たちの上へばらばらと空からふって来た。私は思わ
※⑧ せつな
ず息をのんだ。そうして刹那に一切を了解した。小娘は、おそらくはこれから奉公先へ赴こうとしている小娘は、そ
※⑨ せつな
のふところに蔵していた幾顆の蜜柑を窓から投げて、わざわざ踏切りまで見送りに来た弟たちの労に報いたのである。
※⑩ せつな

芥川龍之介「蜜柑」

※① 一旒…「旒」は旗を数える言葉。

※② 蕭索…ものさびしいさま。

※③ 刹那…瞬間。

※④ 奉公先…住みこんで働くその店や家。

※⑤ ふどころに蔵していた幾顆の蜜柑…娘が着物の中に持っていたいくつかの蜜柑。

第二問 —— 線部(1)・(2)の言葉はどの言葉にかかっているか、その言葉を五字以内で抜き出しなさい。(句読点をふくむ。)

暮色を帯びた町はずれの踏切りと、小鳥のように声を挙げた三人の子供たちと、そうしてその上に乱落する鮮やかな蜜柑の色と——すべては汽車の窓の外に、瞬く暇もなく通り過ぎた。が、私の心の上には、切ないほどはつきりと、この光景が焼きつけられた。そうしてそこから、ある得体の知れない朗らかな心もちがわきあがってくるのを意識した。私は昂然と頭を挙げて、まるで別人を見るようにあの小娘を注視した。小娘はいつかもう私の前の席に返って、相変わらずひびだらけの頬を萌黄色の毛糸の襟巻に埋めながら、大きな風呂敷包みを抱えた手に、しっかりと三等切符を握っている。……………

私はこの時初めて、いいようのない疲労と倦怠とを、そうしてまた不可解な、下等な、退屈な人生をわずかに忘れる事が出来たのである。

※昂然…意気のさかんさま。

芥川龍之介「蜜柑」

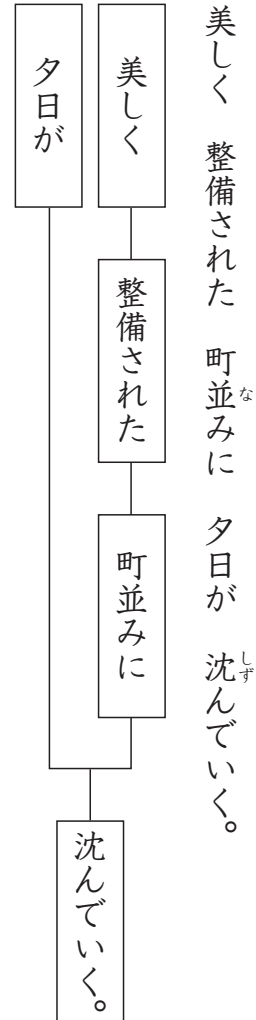
第三問 次の文の()の中にひらがな一字ずつを入れて、それぞれ文を完成させなさい。

- (1) さっきまで晴れていた。だから、() () () () () 急に雨がふるなんて思わなかった。
- (2) やればやる() () () () () 上手くなる。
- (3) 今朝は早く起きられなかった。明日() () () () () は、早起きするぞ。

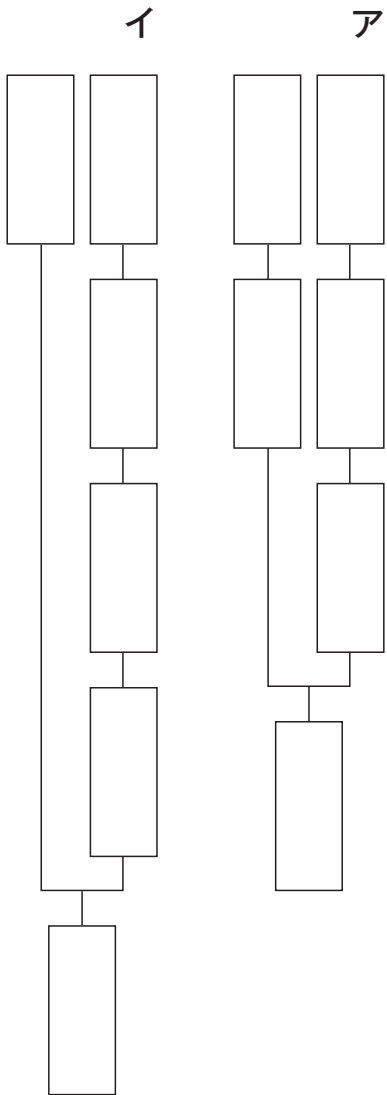
第四問

次の文は、後の構造図のどれに当たるか、例にならって、最もふさわしい図を、次のア～オの中から、それぞれ一つずつ選びなさい。

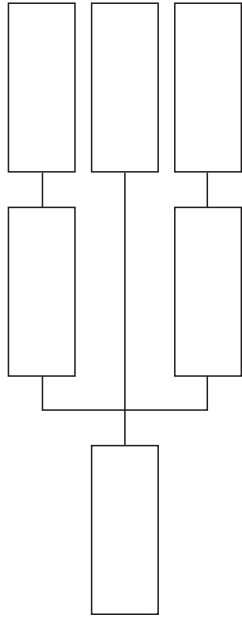
【例】美しく 整備された 町並みに 夕日が 沈んでいく。



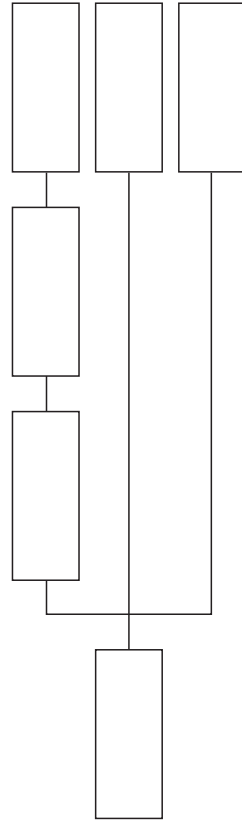
- (1) 今日は 朝から 家中の 掃除を して 過ごした。
- (2) 効率の よい 勉強には 適度な 休息が 必要だ。
- (3) 私が 心を 込めた プレゼントに 母は 喜んだ。



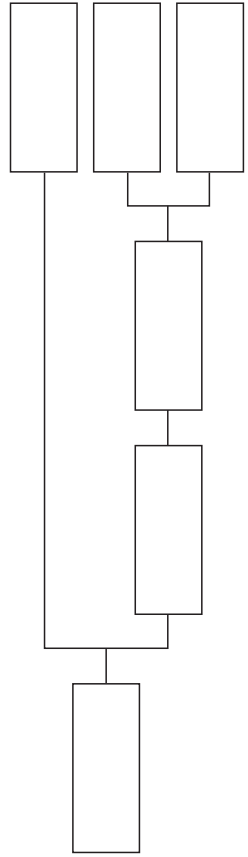
オ



エ



ウ



第五問 次の文の（ ）に入る最も適切な接続語を、後のア～キの中から選びなさい。ただし、それぞれ一度しか使

えない。

- (1) すべてうまくいっていると思った。（ ）そうではなかった。
- (2) まず手を洗って、（ ）おやつを食べよう。
- (3) 母は教師であり、（ ）芸術家でもある。
- (4) バス（ ）電車で来るのが便利です。
- (5) やっと片付けが終わった。（ ）出かけよう。

ア それから イ さて ウ きつと エ そのうえ オ または

カ つまり キ ところが

《問題Ⅲ》 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

雪がすっかり凍^{こお}って大理石よりも堅^{かた}くなり、空も冷たい滑^{なめ}らかな青い（1）の板で出来ているらしいのです。

「堅^{かた}雪^{ゆき}かんこ、しみ雪^{ゆき}しんこ。」

お日様がまっ白に燃^ゆえて百合^{ゆり}の匂^{にお}いを撒^まきちらしました雪をぎらぎら照^ありました。

木なんかみんな（2）を掛^かけたように霜^{しも}でぴかぴかしています。

「堅^{かた}雪^{ゆき}かんこ、しみ雪^{ゆき}しんこ。」

四郎とかん子とは小さな雪ぐつをはいてキックキックキック、野原に出ました。

こんな面白^{おもしろ}い日が、またとあるでしょうか。いつもは歩^あけない黍^{きび}の畑^{はたけ}の中でも、すすきでいっぱいだった野原の上で

も、すきな方^{かた}へどこまででも行^いけるのです。平^{ひら}らなことはまるで一枚^{ひとひら}の板^{いた}です。そしてそれが沢^{たく}山の小^こさな小^こさな

（3）のようにキラキラキラキラ光^あるのです。

「堅^{かた}雪^{ゆき}かんこ、しみ雪^{ゆき}しんこ。」

二人は森の近くまで来^こました。大きな柏^{かしわ}の木は枝^{えだ}も埋^うまるくらい立^た派^はなすきとおった（4）を下^{くだ}げて重^{おも}そうに身体^{からだ}を曲^まげておりました。

「堅^{かた}雪^{ゆき}かんこ、しみ雪^{ゆき}しんこ。きつねの子^こあ、嫁^{よめ}ほしい、ほしい。」と二人は森へ向^{むか}いて高^{たか}く叫^{さけ}びました。

しばらくしいんとしましたので二人はも一度^{いちど}叫^{さけ}ぼうとして息^{いき}をのみこんだとき森の中から

「しみ雪^{ゆき}しんしん、堅^{かた}雪^{ゆき}かんかん。」と言^いいながら、キシリキシリ雪^{ゆき}をふんで白^{しろ}いきつねの子^こが出て来^こました。

四郎は少しぎよつとしてかん子をうしろにかばって、しっかり足をふんばって叫びました。

「きつねこんこん白きつね、お嫁ほしけりや、とってやろよ。」

するときつねがまだまるで小さいくせに銀の針はりのようなおひげをピンと一つひねって言いました。

「四郎はしんこ、かん子はかんこ、(5)」

四郎が笑って言いました。

「きつねこんこん、きつねの子、お嫁がいらなきや餅もちやろか。」

するときつねの子も頭を二つ三つ振ふって面白そうに言いました。

「四郎はしんこ、かん子はかんこ、黍の団子をおれやろか。」

かん子もあんまり面白いので四郎のうしろにかくれたままそつと歌いました。

「きつねこんこんきつねの子、(6)」

すると小きつね紺三郎こんさぶろうが笑って言いました。

「いいえ、決してそんなことはありません。あなた方のような立派なの方が兔うさぎの茶色の団子なんか召めしあがるもんですか。私たちは全体いままで人をだますなんてあんまりむじつの罪をきせられていたのです。」

四郎がおどろいて尋たずねました。

「(7)」

紺三郎が熱心に言いました。

「うそですとも。けだし最もひどいそです。だまされたという人はたいていお酒に酔よったり、臆病おくびょうでくるくるしたり

した人です。面白いですよ。甚兵衛じんべえさんがこの前、月夜の晩私たちのお家うちの前にすわって一晩じようるりをやりましたよ。私らはみんな出て見たのです。」

四郎が叫びました。

「甚兵衛さんならじようるりじゃないや。きっと浪花なにわぶしだぜ。」

子きつね紺三郎はなるほどという顔をして、

「ええ、そうかもしれません。(8) 私のさしあげるのは、ちゃんと私が畑まを作まって播まいて草をとって刈かって叩たたいて粉にして練たってむしてお砂糖をかけたのです。いかがですか。一皿さしあげましょう。」

と言いいました。

と四郎が笑わって、

「紺三郎さん、僕は丁度いまね、お餅をたべて来たんだからおなかが減へらないんだよ。この次におよばれしょうか。」
子きつねの紺三郎が嬉うれしがってみじかい腕うでをばたばたして言いました。

「そうですね。そんなら今度幻燈会げんとうかいのときさしあげましょう。幻燈会にはきつといらっしやい。この次の雪の凍こった月夜の晩です。八時からはじめますから、入場券をあげて置おきましょう。何枚あげましょうか。」

「そんなら五枚おくれ。」と四郎が言いました。

「五枚ですか。あなた方が二枚にあとの三枚はどなたですか。」と紺三郎が言いました。

「兄あさんたちだ。」と四郎が答こえますと、

「(9)」と紺三郎が又尋ねました。

「いや小兄ちにいさんは四年生だからね、八つの四つで十二歳さい。」と四郎が言いました。

すると紺三郎はもっともらしく又おひげを一つひねって言いました。

「それでは残念ですが兄さんたちはお断わりです。あなた方だけいらっしやい。特別席をとって置きますから、面白いんですよ。幻燈は第一が『お酒をのむべからず。』これはあなたの村の太右衛門たえもんさんと、清作さんがお酒をのんでどう目がくらんで野原にあるへんてこなおまんじゅうや、おそばを食べようとした所です。私も写真の中にうつっています。第二が『わなに注意せよ。』これは私共のこん兵衛が野原でわなにかかったのを画かいたのです。絵です。写真ではありません。第三が『火を軽べつすべからず。』これは私共のこん助があなたのお家へ行つて尻尾しっぽを焼いた景色です。ぜひおいで下さい。」

二人はよろこんでうなずきました。

みやざわけんじ　ゆきわた
宮沢賢治「雪渡り」

第一問 —— 線部①は何が撒まきちらしたのか、五字以内で抜き出ぬしなさい。(句読点をふくむ。)

第二問 —— 線部②とありますが、面白いと思った理由を文中の言葉を使って二十字以内で答えなさい。(句読点をふくむ。)

第三問 —— 線部③とは、何と何のことか、五字以内で答えなさい。(句読点をふくむ。)

第四問 (1) (4) に入る言葉を、次のア～オから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア ザラメ イ 鏡 ウ 石 エ 水 オ つらら

第五問 (5) (9) に入る言葉を、次のア～オから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 兄さんたちは十一歳以下ですか。

イ きつねの団子は兎うさぎのくそ。

ウ おらはお嫁よめはいらないよ。

エ そいじゃきつねが人をだますなんてうそかしら。

オ とにかくお団子をおあがりなさい。

第六問 問題文の内容に一致するものを、次のア～カの中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 雪の白を基調に、様々な色使いが鮮やかである。

イ 比喻（たとえ）を巧みに使い、幻想的な世界を描き出している。

ウ 誰もが知っている昔話を元に行っている。

エ 清作さんと、甚兵衛さんはきつねである。

オ きつねはいたずらで人をだますことがある。

カ 子きつねはどうも人間の大人を信用していないらしい。

《問題Ⅳ》 次の問いに答えなさい。

第一問 次の文章の要点を四十字以内（句読点をふくむ。）で書きなさい。

小学生の視力低下が進んでいるということが、文部科学省の学校保健統計調査（速報値）でわかりました。小学生の三割が視力一・〇以下であり、要因として「スマートフォンやパソコン、電子ゲームなどが広まり、近くでものを見る機会が増えていること」が挙げられています。

一方、虫歯のある小学生の割合は減っています。「小さいころから歯科検診けんしんすることや食後の歯みがきの習慣が広まっているためではないか」とみられています。

第二問 次の文章の要点を二十五字以内（句読点をふくむ。）で書きなさい。

おじいさんは、ふらっと旅に出かけてしまう。それがきつとおじいさんには必要なことなのだろう。だから、おばあさんは長い時間をかけてそれを受け入れることにしたのだ。人間には、それぞれの生き方、それぞれの暮らしの形があるものだ。人間とはそういう生き物である。

第三問 次の語句を並べかえて、一文を作りなさい。

- (1) データや いる 地震じしんに 限られて 知識は 関する 。
- (2) が 限界 予測 の ある 地震 には 。

第四問 次の語句を並べかえて文を作ったとき、不要な語句がそれぞれ二つあります。それぞれ答えなさい。

- (1) 食べて ことを みよう 興味が ワクワク やって ある どんどん 。
- (2) 進もう 失敗し 座る 止まらず ても 勉強し いいから 立ち 。

第五問 ①が要点となるように、①と②を合わせて一文を作りなさい。

- ① ぼくはおいしいパンを食べた。 ② パンはケーキのように甘い。

《問題V》 次の問いに答えなさい。

ここにタイムマシンがあるとします。しかし未来か過去かどちらかに一度しか行けません。未来に行く方を選んだ場合に過去を選ばなかった理由をふくめて四十字以上、五十字以内で二つずつ説明しなさい。(句読点をふくむ。) また、過去に行く方を選んだ場合に未来を選ばなかった理由をふくめて四十字以上、五十字以内で二つずつ説明しなさい。(句読点をふくむ。) ただし、後の語句を、一つの理由に対して、必ず一つ以上使うこと。

【語句】 分かる 世界 事実 今 楽しかった 歴史的

分からない 将来 見る 変える 体験 自分